

新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チーム（第 1 回）
議事次第

日時：平成 28 年 3 月 11 日（金）11:00～12:00

場所：内閣府本府 3 階 特別会議室

1. 開 会

2. 遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣挨拶

3. 議 題

- （1）これまでの経緯・検討事項・今後の進め方
- （2）IOC のルール
- （3）海外事例の報告
- （4）国内事例の報告

4. 配布資料

- 資料 1 新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チームの進め方について（案）
- 資料 2 聖火台に関する経緯
- 資料 3 ワーキング・チームにおける検討の基本方針（案）
- 資料 4 聖火台設置位置に関する IOC ガイドライン
- 資料 5 過去大会における聖火台の設置について

新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チーム
の進め方について（案）

- (1) 新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チーム（以下、「検討WT」という。）は、原則として非公開とし、議事要旨及び検討WTで配布された資料を速やかに公表する。ただし、議長が特に必要と認める時は、議事要旨及び配布資料の全部又は一部を公表しないものとするができる。
- (2) 検討WT終了後、原則として、議長が指名する者が記者ブリーフを行い、議事内容を説明するものとする。
- (3) このほか、検討WTの運営に関し必要な事項は、検討WTで決定する。

聖火台に関する経緯

1. 従前計画時

- ・ザハ案に基づく従前計画は、2019年ラグビーワールドカップまでに完成する前提だったので、聖火台を含め2020年東京大会のために必要な追加工事（オーバーレイ工事）を組織委員会が検討し、実施する方針であった。従って、ザハ案時には聖火台に関する計画・予算積算は措置されていなかった。

2. 新整備計画以降

- ・白紙撤回後の新計画では、当初は2020年春の完成見込みであったため、2020年東京大会時に必要な追加スペックを、組織委員会からの要望に基づき、設計段階から織り込むこととした。実際に、例えばオリンピック時のカメラ取材の場所となるモートなどは要求水準にも盛り込まれ、事業者からの技術提案にも含まれている。
- ・しかしながら、聖火台については、開閉会式のセレモニーとも密接に関連する事柄であるため、セレモニーの内容が決まっていない設計段階では対応困難との理由などにより、技術提案の要求水準に盛り込むことは見送られ、後日検討する課題として整理されてきた。

ワーキングチームにおける検討の基本方針（案）

- (1) I O Cルール等に準拠して、聖火台の設置場所に関する基本的考え方を整理する。
- (2) 新国立競技場の現在のデザインを変更することは、基本的に行わない。
- (3) 新国立競技場の工費や工期を変更しない。
- (4) 4月下旬には取りまとめを行い、調整会議に報告する。

聖火台設置位置に関するIOCガイドライン

- 聖火台は開催都市のオリンピックスタジアムに配置するべきである。開会式においてオリンピックの聖火が灯され、閉会式において聖火が消える場所となる。
- 聖火台は機械的なプロセスによるものではなく、人為的アクションによって点火されなければならないため、オリンピックスタジアム内の観客全てから見える場所に配置すべきである。また公衆の関心も高いため、競技期間中はスタジアムの外にいる人々からも見えるよう、可能な限り目立つ場所に配置するべきである。
 - ※スタジアムの構造（屋根で覆われている等）に左右され、スタジアム内外全ての観客の希望を満たすことが不可能な場合もある。そのような場合はIOCに配置場所を提示し承認を得る必要がある。
- 聖火台の最終設計案についてはIOCの承認を得る必要がある。

聖火台設置場所（夏季大会2000～2012）

夏季大会名	スタジアムの屋根	開会式点火時 設置場所	競技期間中			レガシー (現在)
			設置場所	視認性		
				外	内	
2000年 シドニー大会	サイドスタンド にはなし	スタンド	サイドスタンド 上部	○	○	外 (公園)
2004年 アテネ大会	サイドスタンド にはなし	サイドスタンド	サイドスタンド 上部	○	○	建造物として 残存
2008年 北京大会	観客席上に あり	屋根上部	屋根上部	○	○	外 (公園)
2012年 ロンドン大会	観客席上に あり	フィールド上	スタンド前部 付近	×	○	展示等

聖火台設置場所（冬季大会2002～2014）

冬季大会名	スタジアムの屋根	開会式点火時 設置場所	競技期間中 設置場所
2002年 ソルトレイク大会	なし	スタジアム隣接	スタジアム隣接
2006年 トリノ大会	観客席上に あり	スタジアム隣接	スタジアム隣接
2010年 バンクーバー大会	全体的に あり	スタジアム中	スタジアムから 離れた会場外
2014年 ソチ大会	全体的に あり	スタジアム外	スタジアム外

過去大会における聖火台の設置について

一部調査中

	1964年 東京大会	1972年 札幌大会（冬季）	1998年 長野大会（冬季）
開会式会場	国立霞ヶ丘陸上競技場	真駒内スピードスケート競技場 （現：真駒内セキスイハイムスタジアム）	南長野運動公園多目的競技場 （※開閉会式のみを使用） （現：長野運動公園総合運動場野球場 【長野オリンピックスタジアム】）
競技場設置者	国	国	長野市
競技場所有者（現在）	独立行政法人日本スポーツ振興センター	北海道	長野市
聖火台設置者	国（注1）	国（注2）	組織委員会
聖火台の費用負担	国（注1）	ロータリークラブ（注3）	東京ガス（注4）
聖火台の位置	大会開催時 競技場バックスタンド中央上部 大会開催後 同上（平成26年10月まで） 石巻市総合運動公園（平成27年6月18日～）	大会開催時 競技場バックスタンド中央上部 大会開催後 同上（現存）	大会開催時 競技場仮設外野スタンド中央上部 （現在のスコアボード後方付近） 大会開催後 南長野運動公園のエントランス広場に移設 （現存）
競技場、聖火台の 設置経緯	1958年3月 国立競技場が完成（競技場南側スタンドに 聖火台設置） 1958年5月 第3回アジア競技大会開催 1959年5月 IOC総会で東京開催が決定 1961年2月 組織委員会施設特別委員会「競技場拡充 計画についての報告書」に「聖火台は、 新スタンド最上部に移転する」との記載 1962年2月 国立競技場拡充整備着工 1963年8月 完成（聖火台はバックスタンド中央最上部に 移設）	1966年4月 IOC総会で札幌開催が決定 1967年9月 文部省に「冬季オリンピック競技施設建設 調査会」設置（建設構想を作成） 1969年3月 真駒内スピードスケート競技場着工 1970年12月 完成	1991年6月 IOC総会で長野開催が決定 1994年1月 南長野運動公園多目的競技場着工 1996年11月 オリンピック開閉会式会場として完成 （野球場外野スタンド部分に仮設スタンド 設置） 1998年3月 聖火台を運動公園のエントランス広場に 移設 2000年3月 野球場として完成

（注1）聖火台は1958年第3回アジア競技大会のため国立競技場の整備と併せて設置。寄贈等の記録がないことから、国が費用負担して設置したものと推測される。（なお、移設に際して、炬火台及び手摺（ブロンズ）並びにそれらの設置工事一式については、国際ロータリー東京大会記念事業委員会及び東京ロータリークラブから現物寄贈。）

（注2）文部省報告書に競技場は聖火台登行用階段等の仮施設（組織委員会が設置）を除き国が施工する旨の記載があり、札幌市報告書に聖火台は競技場の付属施設に含まれる旨の記載があることから、国が設置したものと推測される。

（注3）組織委員会報告書に「ロータリークラブ寄贈」との記載あり。（なお、聖火台登行用階段については、組織委員会：北海道：札幌市＝2：1：1の費用負担。）

（注4）長野オリンピックにおけるオフィシャルサプライヤーである東京ガスによる「物品/役務提供」。